

Gijie

Trout & River Fishing Magazine

★ 11th Anniversary

「ギジ」¥980

OCTOBER 2008

Opoto月刊 2008年10月1日発行

| 10

日本の鱒族

大雪山のオショロコマ 31

八甲田の蝦夷岩魚

日野
昇

上伊那の大岩魚 70

阿部
洋太

南会津の大山女 49

坂東太郎の櫻鱒 68

佐藤
利川

北海道の雨鱒 79

中大
和也

八幡平の陸封鱒 40

春渡
幸一

特集2
漁場管理最前線

サーニング管理のススメ
人工産卵床の必要性、水資源の森保全
DNA鑑定による天然魚の確定他

宮崎県北川

河畔の森を保全して
川を守るという増殖方法

漁場管理
最前線

'02

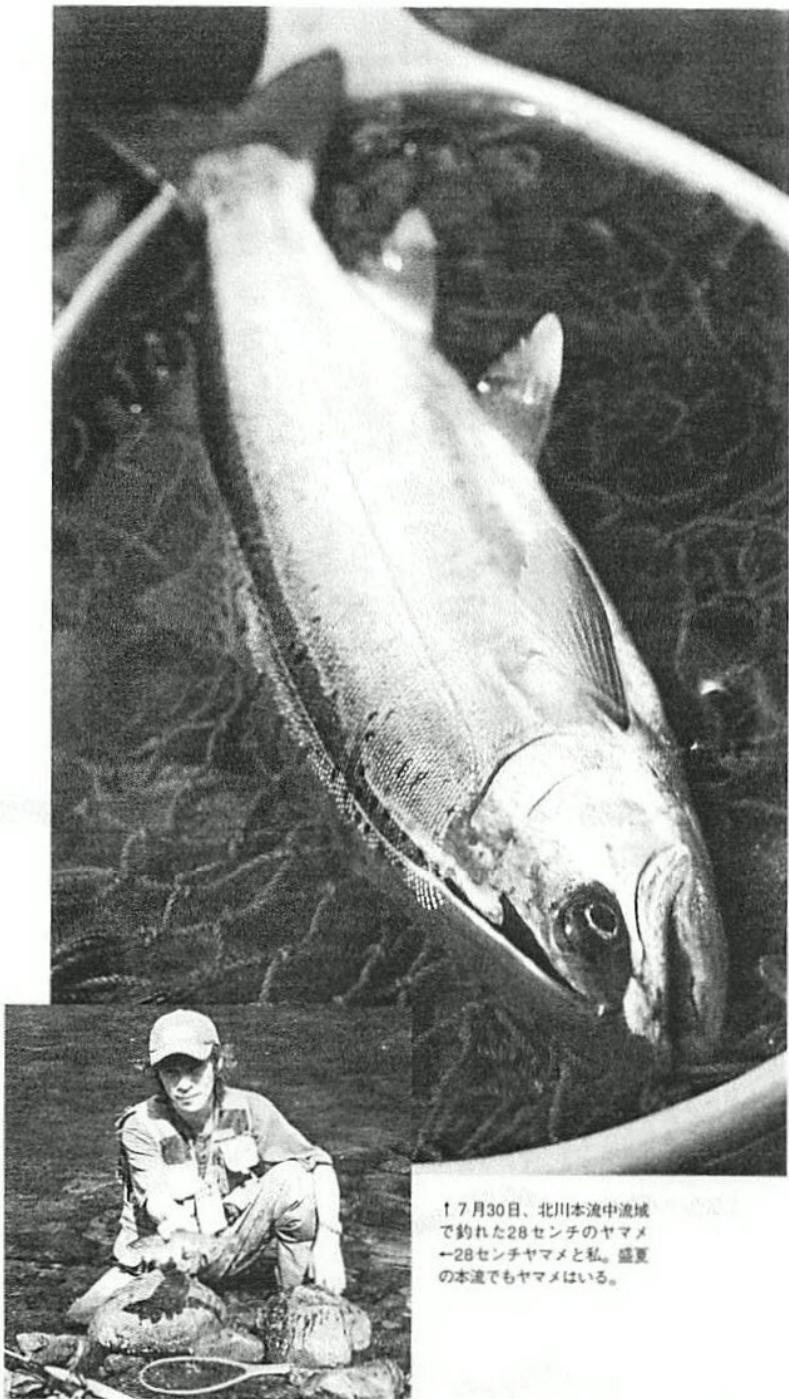
宮崎県北川漁協の“水源の森”

大ヤマメの川と知られる五ヶ瀬川。その支流を管轄する北川漁協は、日本でも珍しい増殖・漁場管理の方法を取っている。

それは、「川に命を与える“水源の森”を漁協が森林組合や個人から一定期間貸借して、豊かな川を再生しよう」という新たな管理方法である。

九州を飛び回るストリーム・アングラー土肥英司が、その素晴らしい試みを取材・レポートする。

取材・まとめ◎土肥英司 協力・写真提供◎北川漁業協同組合



↑7月30日、北川本流中流域で釣れた28センチのヤマメ→28センチヤマメと私。盛夏の本流でもヤマメはいる。

北川の渓流釣り

北川は大分県の国定公園祖母傾山系に源を発し、宮崎県延岡市で日向灘に注ぐ清流で、河口部は五ヶ瀬川と合流しているので五ヶ瀬川の支流として扱われている。しかし、釣り師の間ではイメージ的に別の河川という感覺が強い。

上流より、大分県宇目漁協、宮崎県北川漁協、それに支流の小川上流には北浦内水面漁協が存在し、これらの漁協により北川は管理されている。以前本誌でも宇目町周辺の釣りとして、北川町周辺の釣りは紹介されており、ヤマメの釣り場としても知られるところで、魚の放流も確実に行われている。





上流の宇目町周辺は美しい渓谷（藤河内渓谷など）がある山岳渓流的な釣り場で、各ボイントではヤマメ（エノハ）が狙える。北川ダムや下赤ダムを通って宮崎県延岡市北川町へ入ると、本流は清流的景観となり、河川敷もかなり広くなり、この辺りでは本流ヤマメが狙え、ルアーフィッシングでは40センチクラスのヤマメの実績もある。

その他、支流には里川的景観の場所もあり、北川水系ではバリエーションに富んだ釣りが可能である。ちなみに、地元ではヤマメのことは「エノハ」と呼ばれ、さらに北川町周辺では「シバゴ」とも呼ばれているようである。

「人の環境整備のために引き起こされた自然破壊により、清流北川は名ばかりになってしまった！」

そう感じた長瀬氏は、どうにかせねばと思うようになる。しかし、事はそれほど簡単な問題ではない。植樹にしても、効果はあるが、鹿による食害や成長する年月を考えても速効性は薄い。では、どうするか？

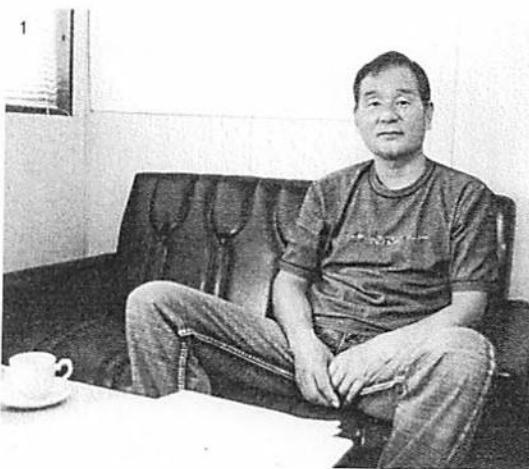
そこで長瀬氏はモットーでもある「金や時間を使わず知恵を使え！」を基に答えを出した。それは、「あるものを残す」ことである。河流域の雑木林を所有者から20～40年間漁協が借り受け管理し、木を切らないようにするものだ。土地所有者の理解や協力を得るに至

”水源の森“を始めるに至った経緯

現北川漁協代表理事組合長・長瀬一己氏は、少年の頃から北川で遊び、森を駆け、多くの自然の恩恵を受けたという。尺アユなどは珍しくなく、沢では5歳の子供が尺ヤマメ

を釣ることが可能であったほど、それはそれは豊かな用だったそうだ。

それが近年はどうだ。山は荒れ、沢には工





3

水源の森

備・場・山林……等々生い茂るこの自然林は
北川漁業協同組合が育てた水の循環事業の第一号です。

この水源の森は、自然林を守り育てて次世代に守護しよう
するもので、森林を提供した下原生産森林組合の方々と、
北川町内の工事において環境保護、涵元校武能効力を務め
られた組工業組の方々のご協力を実現されたものです。

●所在地 北川町大字川内名宇若森山951番
●面積 約50haの松木林(樹齢30年から40年)
●期間 平成13年4月10日～30年間

主な会員
北川漁業協同組合
新井君 丁石生産森林組合
中野正義 中野正義
信友人 北川真文漁業組合
中野正義 中野正義

◎私は自然の一員であり自然によって生きさせていたい立派な生き方をしなければならない。



5

1／北川漁業協同組合、
代表理事組合長・長瀬一
己氏。 2／相次ぐ林道
工事は結果的に山の崩壊
を引き起す。この土砂
の流入で清流はその輝き
を失ってしまうのだ。
3／若森山の森。広葉樹
が碧苔（うっそう）と繁
っている。 4／「水源
の森」第1号である若森
山（わかやぶやま）。
5／水源の森、第1号の
看板。



"水源の森"の現状と 県境を越えた画期的な試み

これまでには、相当の労力を必要としたと思われるが、9年前の活動開始から「水を守る森を残さない」による「水源の森」は、確実に増え続けている。

現在「水源の森」は14カ所、合計3255.8ヘクタールまでになった。いち漁協が行っていることとしては、驚異的な数字である。平成18年には国より「水資源功績者」の表彰を受けた（国は表彰するだけでなく、このような活動にはもっとバックアップしてほしいものだが……）。

北川漁協管轄内の「水を守る森を残さない」による「水源の森」の活動の他に、北川水系では環境保全プロジェクト「清流北川守ろうかい」というものが、ある。これは、北川漁協、北浦内水面漁協、東海漁協、宇目漁協（大分県）という北川のすべての漁協が参加したプロジェクト（会長は長瀬氏）で、北川水系全体の森と水を守り、豊かな自然環境を保全していくことを目的としている。当然ながら、この中には「水源の森」を水系全体に延べていくことも含まれている。水源の森とは別のことだが、画期的な事例があるので、ここで紹介しよう。



Kitagawa River



水源の森つくり参画事業所

日本本土株式会社は、北川本流の流域を守るために、北川本流を守るために、当社が森林を育むとして、事業を行っています。

- 著者：北川町立水資源部
- 著者：北川町立水資源部
- 著者：北川町立水資源部
- 著者：北川町立水資源部
- 著者：北川町立水資源部

※ 本件は自然の一部であり、自然によって生まれていることを記念する

1/中央に見えるのが「水源の森・第三号赤谷山」。北川本流沿いにある。
2/水源の森・第三号の看板。3/水源の森・第二号、替崎山（かえざきやま）・猫谷山（ねこだにやま）の看板。業者の参加もある。4/国土交通省の式典にて水資源功績者の表彰を受ける長瀬氏。



今後の展望

「水を守る森を残そうかい」による「水源の森」の当面の目標は500ヘクタールである。そして将来的には、もっと拡大していくたいそうだ。「子供や孫たちにも、自分が幼い頃に見た川を見せてやりたいですからね」という組合長・長瀬氏が一番感じていることは、「公共事業への環境対策費の導入」である。これは、公共事業の実施において、自

県境を越えた所（大分県）に北川ダムがある。ダム湖の近辺には道の駅があり、そこにはキャンプ場などが設けられている。当然、浄化槽もある。この浄化槽の能力が不十分だと感じた北川漁協は、他県である上流の宇目町（現在は合併し大分県佐伯市）に呼びかけ、話し合いをし、地元自治体とも連携し、約2倍の処理能力のものに造り変えた。

通常、漁協の管轄外だったり、県を跨いだりすると、このような事業は大変やりづらい。これは他の漁協関係者との話でもよく聞かれることだ。しかし、熱心に取り組めば不可能ではないという事例である。「上流の水質が悪化すれば、下流も悪化するでしょ」と長瀬氏がいう通り、県境などに關係なく水は流れるのであり、魚は自由に行き来するのである。

このように北川漁協の活動は、単なる魚の放流に止まらず、様々な方面へ及んでいます。「私は北川漁協の組合長、北川を守る義務があります」と述べる長瀬氏だが、こんな質問をしてみた。

「組合長は北川をよくするために様々な活動をなされていますが、それは使命を感じてのことですか？」

「いえ、趣味です」

そう笑いながら話す姿は、まさに「北川の番人」に見えた。

「現在、河川工事における河畔林の消滅、林道・作業道工事による谷川の変貌、漁場の消滅、河川への土砂流入など多大な被害を受けています。環境にやさしいという名のもとに、人間にとっての環境は整備されつつあります。が、自然という本来のあるべき姿についての配慮がなされていないと思います」

北川漁協の取り組みは他にもある。「水源の森」関連の活動で、川を守る一方、「障害者も参加できる釣り大会」や「児童から大人まで参加できる魚のつかみ捕り大会」など、一般の人たちが楽しめるイベントも開催している。多くの人たちに川遊びの楽しさを知つていただき、川への意識を高めてもらおうと、いうわけだ。世の中で恐いのは無関心であり、一般の人たちの目が川へ向いていれば、特定の人たちによる自然破壊も少しはなくなるはずである。

然環境保全を目的とし、経費の中に環境保全対策費を当初の計画の段階から確保するといふもので、工事に伴う自然破壊を最小限に抑えたいという考えだ。長瀬氏はいう。